

# 令和7年度事業報告書

(2025年1月1日～2025年12月31日)

## I. 事業の概要

当法人の目的である、美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進及び我が国文化の向上のため、下記事業を行うと共に美術館の照明設備のLED化工事及び展示ケースのリフォーム工事を行いました。美術館の水害対策工事は継続実施中で令和8年末には完了予定です。

こうした中で、石洞美術館では限られた開館日数ではありましたが、3回の企画展を開催しました。その中で「第53回伝統工芸日本金工展」では、公益社団法人日本工芸会の名誉総裁でもある佳子内親王様が、ご来館されました。

また、美術工芸の創作、調査研究に対する助成事業では11件の応募があり審議した結果、6件の応募者に助成をする事となりました。さらに若手金属芸術家を奨励する淡水翁賞の授賞式を4月に行いました。

## II. 事業毎の計画

### 1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

#### (1) 石洞美術館

##### ① 展覧会

「イスラーム陶器展」 1月17日金曜日～4月13日日曜日

開館日数 74日 来館者数 1721名 一日平均 23名

所蔵するイスラーム陶器などの工芸品 87件を展示しました。

「第53回伝統工芸日本金工展」 5月23日金曜日～6月20日金曜日

開館日数 26日 来館者数 1717名 一日平均 66名

「伝統工芸日本金工展」は公益社団法人日本工芸会との共催の展覧会です。出品作品は鑑審査を経て入選した作品 121件を展示し、文部科学大臣賞、東京都教育委員会賞、朝日新聞社賞、石洞美術館賞等を授与致しました。

「東南アジアの工芸展」 10月25日土曜日～12月21日日曜日

開館日数 53日 来館者数 1094名 一日平均 21名

所蔵するタイやベトナムなどの陶器や金工品など 82件を展示しました。

## ② 地域との連携活動

石洞美術館での「伝統工芸日本金工展」の開催中には専門講師を招き、一般来館者に作品解説会を2回行いました。

また、公益財団法人足立区生涯学習振興公社と共催し6月9日(月)にはコンサートインミュージアムを開催し、バンドネオン奏者の鈴木崇朗氏、タンゴギター奏者の福井浩気氏に出演して頂き、92名のお客様が来館されました。

## ③ 広報活動

美術館・博物館共通割引入場券「ぐるっとパス」に参加しました。  
ぐるっとパスでの入館者は1121人でした。

## ④ 資料の収集

金工作家の大須賀<sup>ひとし</sup>選氏より、石洞美術館への寄贈の依頼があり、下記作品3件をご寄贈頂きました。

- a. 蜻蛉<sup>せいらい</sup>文黒銅八角盆                      b. 金の鳥置物                      c. 貝文銀象嵌銅瓶<sup>ばいもんぎんぞうがんどうへい</sup>

購入した作品は下記2件です。

16代坂倉新兵衛作 大道粉引茶碗1件  盃1件

## 2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

### (1) 助成事業

令和7年度助成金応募件数は3件あり、助成選考委員会を開催し選考の結果、下記2件の調査研究に対して助成を行いました。

- a. 竹田多麻子 「ウズベキスタンプハラ・オアシス出土ガラスの調査研究」  
助成金額            1,400,000円
- b. 下出茉莉 「根来漆器の紀年銘作品の調査」    助成金額            636,620円

### (2) 表彰事業

今年で淡水翁賞も第40回目となり、7件の応募がありました。

1月に選考委員会が開催され、審査の結果、下記三名に決定しました。

最優秀賞は久野<sup>あやこ</sup>彩子氏に、優秀賞は三島<sup>いっと</sup>一能氏と半下石<sup>あやこ</sup>礼子氏が授与されました。

授賞式は4月8日(火)に千住金属工業㈱の5階第1会議室にて実施され、鈴木理事長より淡水翁賞が授与されました。

## 附属明細書について

令和7年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

令和8年3月

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金